

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

# F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

**[特集]** 高まる環境への意識  
～環境に配慮した製品を作る～



F-FACT

vol.43

令和2年9月25日発行 (奇数月25日発行)

編集発行 **fisc** 公益財団法人ふくい産業支援センター

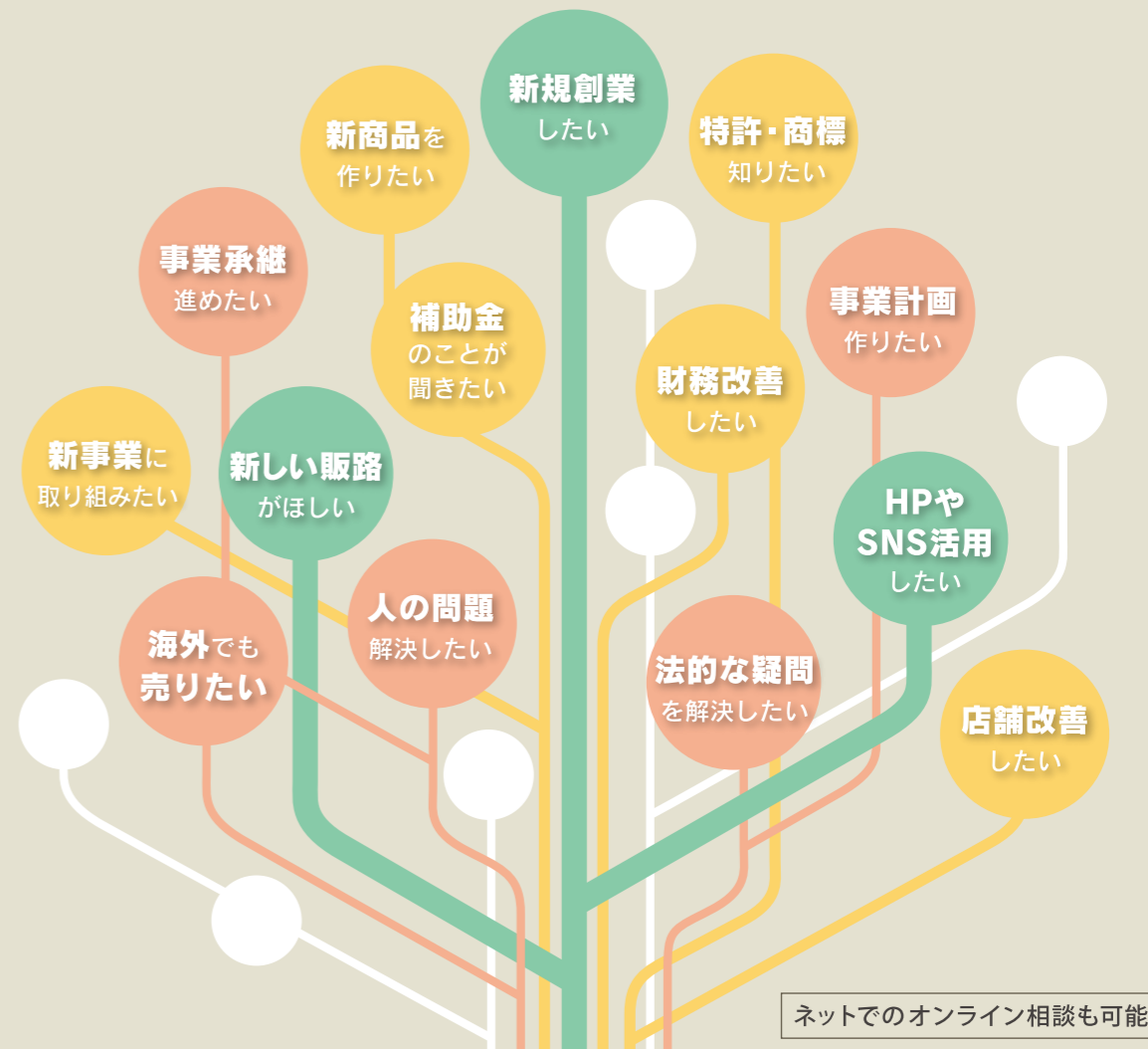
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 TEL 0776-67-7414

**fisc** 公益財団法人ふくい産業支援センター

Vol.43



## それぞれの専門家に 無料で何度でも相談できる 福井県よろず支援拠点



ネットでのオンライン相談も可能

- ① 相談申込み**  
電話 ☎ 0776-67-7402  
FAX ☎ 0776-67-7429  
mail ✉ yorozu@fisc.jp  
HP 🌐 bizsupportfukui291.info
- ② 相談日・場所の調整**  
相談内容・相談場所・日時等を調整し相談日を決定します。
- ③ ご相談**  
相談のお時間は約1時間。  
相談は県内各サテライトにて10時～16時対応しています。  
ネットでのオンライン相談も可能。



中小企業のための無料相談窓口  
**福井県よろず支援拠点**  
(福井県産業情報センタービル6階)

福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16  
**TEL.0776-67-7402**  
● FAX.0776-67-7429  
● E-mail:yorozu@fisc.jp  
アクセスはこちらから  
<https://bizsupportfukui291.info>  
福井県よろず支援拠点 検索



展示会の様子

企業新ものづくり・新サービス「2019」に  
出展したところ、カジュアルスポーツや  
ファッション関連企業だけでなく、産業資材用



株式会社林田 会社外観

サステイナビリティ」を事業の中心に据えて、事業計画を立案している状況です。  
そこで、多様な染糸を取り扱う株式会社林田は、このような業界の動向に注目し、これまで取引のあった中木戸織物有限会社、株式会社トレスアクアの2社と共同で「繊維企業連携新素材開発等支援事

### 再生糸を用いて 生地を開発する

日本の原糸メーカーが製造する糸を使って、カジュアルスポーツ用途やファッション用途などの生地「SUSTEX（サステックス）」の開発を行い、販路開拓のための活動を行いました。

業」を活用し、エコ新素材の開発および販路開拓に取り組ましました。  
まずはカジュアルスポーツ用途の生地です。リサイクルナイロン、リサイクルポリエステルを使用し、これまで得意としてきた伸縮性があって軽い生地にしました。販路開拓のために、昨年12月に開催された「中小企業新ものづくり・新サービス2019」に出展したところ、カジュアルスポーツやファッション関連企業だけでなく、産業資材用の生地を扱う企業など、新たな分野の企業からの評価や情報を得ることができたそうです。評価や情報はその織物によって様々で、「バリエーションがもっとあった方が良い」「機能性ももっとあった方が良い」などがありました。様々な分野のニーズにこたえられるように改良する必要はありましたが、スポーツ分野とサステイナブルという考え方は親和性が非常に高く、ニーズも高いことから製品が高く評価されました。  
次にファッション用途です。主にリサイクルナイロンを使用し、幅広いファッション用途へ向けて販路開拓を行ったところ、最終生地のユーザーが、日本国内か欧州やアメリカ、アジアなど、その国によってサステイナブルの関心の温度差がかなりあること、環境に優しい素材を使用している事が売り上げに直結することはない、最終ユーザーがそれぞれ強く意識している訳でもないということを感じました。しかし、特に欧州のトップブランドなどは、

# 高まる

## 環境への意識

~環境に配慮した製品を作る~

近年、日本の繊維業界では、化石資源を原料としない「植物由来素材」や、自然環境中で分解する「生分解性素材」を糸の原料にするといった「環境」への意識が高まっています。そんな中、福井県では繊維以外の企業でも環境に配慮した製品を開発するといった「環境」を意識した事例が増えてきています。

そこで、それらの事例を取材し、経営者の着眼点や日頃の考え方などを紹介。合わせて7月より有料化になり話題になったレジ袋について、製造会社にレジ袋の需要とその推移も取材し、近年の福井県内企業の環境を意識した動きについてご紹介していきます。

### 近年の繊維業界のトレンド

近年、「SDGs（持続可能な開発目標）」「サステイナブル（持続可能性）」という言葉が耳にします。繊維業界では世界的なキーワードとして取り上げられています。具体的には素材を環境に配慮したものにすることで、リサイクルポリエステルやバイオ由来の合繊、植物由来の再生セルロース繊維、オーガニックコットンなど様々なエコ素材が採用されています。

なぜ、エコ素材が注目されるようになったのでしょうか。一つは、欧州を中心に社会的に地球環境への関心が高まり、これがファッションに波及してきたといえます。とくに契機になったのは、2015（平成27）年に国連サミットで採択されたSDGsと、同年に締結された気候変動抑制を指したパリ協定です。そこでは各国政府の役割だけではなく、民間企業による経済活動でもサステイナブルの取組が重要とされ、これが経済活動の推進力

として一気に注目されるようになりました。

### 福井県での事例紹介

アパレルメーカーや繊維素材メーカーをはじめ業界全体の動きとして、「環境」への意識が高まっています。さらには、環境配慮素材であることが前提で、数年後には環境配慮素材を使った商品のみ取り扱うといった宣言をする欧米アパレルブランドも存在します。こうした世界の動向もふまえ、福井県・石川県と繋がり深い大手企業も、「環境・エコ」や「持続可能性」

### Contents

- 1 高まる環境への意識 ~環境に配慮した製品を作る~
- 3 【企業事例①】(株)大麦倶楽部
- 4 【企業事例②】(株)マーベルコーポレーション
- 5 【企業事例③】(株)五十嵐製紙
- 7 実際どうなの？ レジ袋の有料化
- 8 レジ袋製造会社へ聞いてみた！ (株)ミヤゲン
- 9 【企業事例④】(株)三和商会
- 10 【企業事例⑤】(有)あまから
- 11 よろず支援拠点成果 相談ノート
- 12 Start a New Project
- 13 今月の注目企業 (株)ウノコーポレーション
- 15 こんにちは。FOIPです。
- 16 グッドデザインシンキング
- 17 総合相談
- 18 ふくいAIビジネス・オープンラボ
- 19 インフォメーション
- 21 新スポット巡礼他



採用されたコレクション



「SUSTEX」のサンプル

企業あるいは人類として取り組まなければならない必須のミッションであるという認識なのだと感じました。そのため、可能な限りそういった素材を選択していく事が益々必要であるのではないのでしょうか。また、今回開発した生地は、欧州のトップブランドの一つである「Jil Sander（ジルサンダー）」の2020年コレクションに採用されました。今後、「SUSTEX」

がどのように広まっていくかに目が離せません。

福井県では他にも、環境に配慮した商品を開発して売り上げを伸ばしている企業があります！  
次のページへ▶

## CASE 2 Marvel (驚嘆・不思議) な技術と情熱を世の中に発信

### 株式会社マーベルコーポレーション

「株式会社マーベルコーポレーション」代表取締役の小澤聖輔おざわせいすけさんに、同社が商品化した環境に配慮した製品についてお話を伺いました。



代表取締役社長 小澤聖輔氏

MARVEL WOOD



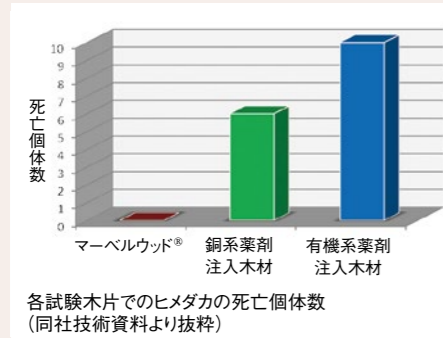
施工例「ふくい健康の森の木橋」(左)「京都北野天満宮デッキ」(右)

株式会社  
マーベルコーポレーション  
https://fukuiweb.jp/marvel/

所在地:福井市原目町4-30  
代表者:小澤聖輔氏  
事業内容:環境配慮型保存処理木製品の製造・加工・販売  
TEL 0776-53-7715

**Marvelな木材**  
従来の木材防腐剤を使った木材製品は銅由来成分が使われているので緑銅色をしており、水に溶ける性質があるので効果が長続きせず、雨に溶けだして土壌汚染・水質汚染につながっていました。同社が取り扱う薬剤を使った木材「マーベルウッド®」は天然成分由来のものが使わ

**Marvelな会社の登場**  
もともと三谷商事株式会社の物資部に勤務していた小澤さんは当時、木材の防腐剤が環境を汚していた現状に注目。そこで1998(平成10)年に、社内ベンチャー制度を活用して、環境に配慮し且つ従来の薬剤よりも優れたものを開発する事業「マーベルウッド木材改良事業」を立ち上げました。徐々に事業が軌道に乗り始め、本事業に専念することを決意した小澤さんは2011(平成23)年に独立し、環境配慮型の木材製品の技術開発、製造販売を手掛ける「株式会社マーベルコーポレーション」を設立しました。



れ且つ木材本来の色で、水に溶けださない性質なので持続性が高く、環境への影響も少ない優れたモノです。その「環境性」「耐久性」「美観性」を兼ね備えた同製品は、展示会に出展すると高い評価を得て、かなりの引き合いがあったそうです。福井県内ではJR福井駅前のイスやベンチ、ふくい健康の森「木橋」などに、県外では京都北野天満宮のデッキなどに使われています。「本製品導入先の拡大や展示会により信頼は間違いなく獲得できています。ただ、製造工場が福井県にしかないのが遠方での引き合いがあっても応えられていないのが現状ですね」と小澤さんは複雑な表情を見せます。現在、県外に工場を新設する計画が

**海外でも好感度**  
2019年4月に「中小企業等外国出願支援事業」を活用するなどして同製品の特許を取得し、同時期に「農商工連携事業(※注1)」に認定され、去年の9月に「AQ一種(※注2)」を取得することでブランドの信頼を積み重ね、2019年12月に台湾での展示会出展を果たしました。「台湾は距離的に近く、木材を輸入に頼っている国です。県や国からも認めてもらったマーベルウッドは台湾の方にも高い評価を得られました」と小澤さんは満足そうな表情を見せます。  
コロナ禍で台湾での販路開拓の動きは鈍くなりましたが、展示会をきっかけに、台湾企業との商談が今年11月に行われるそうです。福井県産の木材がジャパンブランドとして台湾に輸出される日が待ち遠しいです。  
(注1) 認定されると経済産業省と農林水産省からの支援が受けられる。  
(注2) (財)日本住宅・木材技術センターが認定する、優良製品の証

## CASE 1 原点回帰。大麦をストローに。

### 株式会社大麦倶楽部

「株式会社大麦倶楽部」代表取締役の重久弘美しげひさひろみさんと顧問の典嗣のりつぐさんに、同社が商品化した環境に配慮した製品についてお話を伺いました。



代表取締役社長 重久弘美氏(右)  
顧問 重久典嗣氏(左)



株式会社大麦倶楽部  
https://www.oomugi-club.com/

所在地:福井市殿下町48-6  
代表者:重久弘美氏  
事業内容:六条大麦の製造・加工・販売  
TEL 0776-97-6369



本来は刈り取った茎の部分はそのまま肥料に。

**六条大麦の使い道**  
通常、六条大麦は麦茶や麦飯に使われるため、実の部分しか使いません。実より下の部分は土壌の肥料として使う  
**六条大麦を福井の特産品に**  
六条大麦の加工・販売の同社は2010(平成22)年に創業し、今年で10周年を迎えたのを機に、9月に法人化したばかりです。生産量全国1位(令和元年時点)を誇る福井県の六条大麦を広めようと、当時はパン用大麦粉の製造から始め、今では「そのまま食べられる麦茶」や「六条大麦のカレールー」などの多彩な商品を生み出して福井県産六条大麦の情報発信拠点の一端を担っています。



イメージキャラクターの「おおむぎママ」  
「おおむぎママの麦ストロー®」  
作業で行います。人員を増

**世間の脱プラの意識**  
同商品は、長さや色味など、いわゆる「表情」が1本1本異なる大麦をきれいに揃えて提供するため、作業はすべて手作業で行います。人員を増  
のが当たり前でした。ここに注目した弘美社長「ストロー(straw)の起源は麦の茎です。わたしも昔、ストロー代わりをして遊んでいた経験がありました。六条大麦を取り扱う仕事をするならばストローにしてみよう」と思いました。原点回帰です。「ね」と経緯を語ります。創業当時からノベルティとして顧客に配っていました。プラスチックが環境問題として国際的に注目されるにつれ、次第にストローの要望が集まるようになり、ついには2019年に、福井県よろず支援拠点を利用するなどして「おおむぎママの麦ストロー®」を商品化しました。

**今後の展開**  
良い話だけでなく、課題もいくつかありました。首都圏の大手企業数社から100万本単位の注文がありました。大量生産ができないために見送ることになったことや、プラスチックストローのように個別に包装することがまだできていないので、場面によっては衛生面が懸念されることなどが挙げられます。「刈り取る機械を改良したり刈り取る時期を調整したりと試行錯誤をしています。初心に帰ることを忘れずに課題を解決していきます」と弘美社長は意気込みを語ってくれました。



野菜の皮で作ったノート

「SDGs」の気運高まり  
知名度向上の追い風に  
展示会での反応を受け、TSUGIプロデュースの下、今年4月から本格的に販売を開始。現在は、同社が運営する「TOURISTOR E(ツーリストア)」、ネットショップなどで販売を行っています。「講座の受講を始めた頃には、1年後にこんな展開になるとは思っていなかった」と話す五十嵐氏は、近

政七商店の中川政七会長から「これは絶対にいける商品」と太鼓判を押されました。同社の支援を受け出展した同社主催の合同展示会「大日本市」でも、来場者の好感度ランキングで上位に入賞するなど高い評価を得たといいいます。「大手カフェチェーンや、高級ホテルの担当者がブースにいらっしやあって『すごい展示会に来た』と実感しました。展示会の後も『こんな食材で紙を作ることができないか』とたくさん問い合わせがありました。変わるところではワカメの茎を送ってこられた企業さんもありましたね」

年脚光を浴びているSDGs(「持続可能な開発目標」という社会的なキーワードとマッチしたのではとも自己分析します。「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す」というのがSDGsの趣旨。今年に残り10年という区切りの年でもあり、企業が「何かしなければいけない」と本腰を入れ始める時期に重なったとも思います。フードペー



「大日本市」で商品説明をしている五十嵐匡美氏(右)

## TSUGIからひとこと

TSUGI LLC.代表 新山直広さん  
同社フードペーパー事業部 安田さん

講座を受講したのをきっかけに五十嵐さんと一緒に準備をしてきました。社会的に意義のある優翔君のアイデアを我々が、会社として利益の取れる商品にさせたいと強く思っています。

現在弊社は「フードペーパー」の卸やコーディネートを担当しています。同製品を発売してから、たくさんのお問い合わせをいただいております。メニュー表の作成など、飲食業界からOEM注文も多くいただいております。今後はOEMに広く対応させるために、加工性などの課題に取り組んでいるところです。

## CASE 3

# 息子のアイデアで フードロスに一石を投じる

## 株式会社五十嵐製紙

1500年の歴史を誇る越前和紙の産地、越前市。市内で100年にわたり和紙作りに取り組むのが、今回紹介する株式会社五十嵐製紙です。同社は今春、廃棄される野菜や果物から作られる紙文具ブランド『Food Paper (フードペーパー)』の販売をスタート、環境配慮型の商品展開を進めています。開発の経緯について、同社の伝統工芸士・五十嵐匡美氏に伺いました。



五十嵐匡美氏(右)、次男の優翔さん(左)

## 株式会社五十嵐製紙

所在地:越前市岩本町12-14  
代表者:五十嵐 康三氏  
事業内容:和紙商品製造・販売  
TEL 0778-43-0267

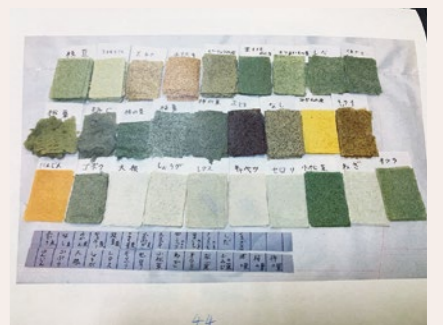
http://www.wagamiya.com/index.html  
専用サイト https://foodpaper.jp/

## 「野菜で紙を作りたい」 次男の自由研究が原型に

フードペーパーの原型誕生は今から5年前、五十嵐氏の次男である優翔さんが取り組んだ夏休みの自由研究にさかのぼります。「テレビでたまたまバナナペーパーの特集をやっていたんです。それを見て、『きっと僕にもできる』と、野菜を使った紙作りをやってみたくらいと。私は和紙づくりの常識から『できるわけないじゃん』とは思ったのですが、形にならなかったとしても、やったという証が残ればと見守っていました」  
当時小学4年生だった優翔さん。野菜の切れ端や果物の皮を使った紙はなかなかのどきばえで、五十嵐氏も驚くほどでした。自由研究は優翔さんが中学2年生になるまで毎年続き、顕微鏡での組成観察、筆記特性の調査など内容が深まっていきました。しかし、あくまでも夏休みの自由研究で、五十嵐氏は「商品として売り出すことになるとはまったく想像がつかなかった」と振り返ります。

## 「経営とブランディング講座」で 商品化への道ひらける

商品化への道がひらけたきっかけとなったのは、昨年7月11日、当センター主催の「経営とブランディング講座」でした。雑貨製造販売の中川政七商店(奈良市)のスタッフを講師に招いた講座に、五十嵐氏は「社長に背中を押されて」参加。「会社を診断する」「ブランドをつくる」「コミュニケーションを設計する」などのテーマの下、全6回のプログラムを受講しました。  
講座の席を共にした一人が、鯖江市にあるデザインスタジオ「TSUGI」(鯖江市)代表の新山直広氏でした。五十嵐氏と新山氏は、イベン



様々な食材を使って和紙を漉いていました。



野菜の皮で作ったサコッシュ

ト運営などを通してかねて親交のある間柄。最終プレゼンテーションの準備に際し、相談を持ちかけたのだそうです。「新山さんから『五十嵐さん、食べられる紙ってないんですか?』と聞かれたんです。新山さんは思いつきの一言だったみたいですが、その時、息子の自由研究がピンときたんです。プレゼンまで2カ月ほどしかない時期でしたけど、野菜を使った紙で行こうと」  
試作に当たっては、県の「小規模事業者支援強化事業補助金」事業を活用。プレゼンテーションでは最優秀MVP賞を受賞し、審査に当たった中川

パーが世に出る時期がちょっと早かったり遅かったりしたら、ここまでの反響はなかったかもしれません。5年分の自由研究ファイナルを繰りながら、五十嵐氏はかみしめるように振り返ります。



営業本部長  
西村英治氏



代表取締役社長  
宮元武利氏

株式会社ミヤゲン

https://miyagen8.co.jp/ja/main\_home/  
所在地:敦賀市山泉7-15-3  
代表者:宮元 武利氏  
事業内容:包装資材、観光物産、水産資材の製造販売  
TEL 0770-21-0038

# レジ袋製造会社に 聞いてみた!

## レジ袋の有料化による企業の行動

「株式会社ミヤゲン」代表取締役社長の宮元武利さんと  
営業本部長の西村英治さんにお話を伺いました。

有料化をうけて注文に変  
化はありましたか。

西村本部長…まず大手企業様からの注文が、通常のプラスチックレジ袋からバイオマス素材25%配合プラスチックレジ袋に変わりました。次に中小企業様からは、「今までと同じくらいのコストで無償化対象のレジ袋」を提案してくださいというお問い合わせが寄せられるようになりました。レジ袋有料化の方針が決まった去年から早い段階で注文や問い合わせに変化が現れましたね。弊社もある程度注文の変化を想定し準備をしていましたが、思った以上の変化はありませんでした。

それはなぜだと思いますか。

宮元社長…最近弊社にいたでいる注文やお問い合わせの傾向から、企業の環境に配慮する意識の高まりを感じるものの、「今まで無償だったものがいきなり有料化されることへの顧客側の抵抗感」「コストをかけてまで無償化を継続させることの費用対効果」を考えると、レジ袋の導入方針が決めにくいのではないかと考えます。バイオマス素材のレジ袋は通常のプラスチックレジ袋よりもコストがかかりすぎ、今ではマイバッグが普及していていますので。



業界にその傾向が表れていますが、レジ袋の有料化もしくは無償継続に関しては業界リーダーや同業他社の様子うかがっているのではないかと考えます。飲食関係や観光関係の取引先からの注文は有料化以前と変わらないので、ほとんどがレジ袋を有料化しているのではないかと考えます。

これからレジ袋はどう変わっていくと思いますか。

宮元社長…ここ最近、日本だけでなく世界的にプラスチック減量化の動きが高まっているので、ある程度の割合でレジ袋の素材が環境に配慮したものに変わっていくのではな



(一社)日本有機資源協会が認定する、品質および安全性などを満たした信頼の証。

いかと思います。弊社ではバイオマスマークの認定を受けてレジ袋を製造しています。現在、現在の申請が全国的に殺到していると聞いています。有名なバイオマスプラスチック素材はサトウキビを原料としたものが主流ですが、いま世界中でその原料が不足しており、弊社の海外ネットワークを駆使しても今年の3月以降は原料が安定供給されず、思うようにレジ袋が製造できていない状況です。弊社には技術があり、現在は10年以上前から取り組んでいるバイオマスプラスチック素材の研究で培った技術でサトウキビに代わる新しい原料を開発中です。

実際どうなの？  
レジ袋の有料化  
ここからは、今年7月から有料化され、注目を浴びたプラスチック製買物袋（レジ袋）に焦点を当てていきます。福井県にある企業が今現在、レジ袋が有料なのか、それとも無償なのかなど、各企業の実態を独自で調べてみました。



### 大手コンビニでは

コンビニ名(順不同)	袋素材が バイオマスか否か	有料か無償か
セブン-イレブン	○	有料(各種3円/特大のみ5円(税抜))
ファミリーマート	○	有料(各種3円(税込))
ローソン	○	有料(各種3円(税込))
ミニストップ	○	有料(2円/特大のみ4円(税抜))

※各社ホームページより

### ドラッグストアでは

ドラッグストア名 (順不同)	袋素材が バイオマスか否か	有料か無償か
ゲンキー	○	無償提供
ウェルシア	○	有料(中サイズ2円、特大サイズ5円(税込))

※各社ホームページと聞き込みより

### 食品スーパーでは

スーパー名(順不同)	袋素材が バイオマスか否か	有料か無償か
ヤスサキ	○	有料(小3円、大5円、紙袋3円(税抜))
バロー	○	有料(小1円、お弁当袋2円、大3円、特大4円(すべて税込))
ハニー	×	有料(小3円、大5円(税抜))
ハーツ	○	有料(大5円(税込))

※各社ホームページと聞き込みより

ほとんどが無償提供できるバイオマスプラスチック25%以上配合のレジ袋を導入していますが、レジ袋削減のため**有料**で提供していることがわかりました。

## CASE 5 ありそうでなかった製品の開発 お持ち帰り革命

### 有限会社あまから

「有限会社あまから」代表取締役の野坂昌之さんに、同社が開発した環境に配慮した製品についてお話を伺いました。



初代(中央)、2代目(右)、3代目 野坂昌之氏(左)

有限会社あまから  
http://g-amakara.com/

所在地:福井市西谷3丁目1303  
代表者:野坂昌之氏  
事業内容:洋食店  
TEL 0776-35-3109

2014年にあつた消費税の引き上げで売り上げが落ち込んだのをきっかけに、今までやってきたことを見直すことにしました。「この先、既存事業だけでは生き残れない」と思い、お店を支える柱を増やしたいと思っていました。福井県の特徴に注目し、何かできないかと模索していたらお持ち帰り容器が目に入り「お持ち帰り容器は当時を振り返ります。そこで開発したのが、使い捨て岡持ちの「OKAMOCHI®」でした。レジ袋を使わず積み上げて運ぶことができ、まるでアフタヌーンティーセットの様に写真映える同製品は、独自性や先進性が高く評価され、同業者や

#### お持ち帰り商品の開発

1934(昭和9)年創業の老舗洋食店「グリルあまから」を運営する同社は、デミグラスソースとは一味違った「エスパニョールソース」のオムライスが有名で、子供からお年寄りまで訪れるお店です。そんな老舗洋食店が、環境に配慮した商品を開発することになりました。

2018年、同製品のバリエーションを増やしてゆき、お持ち帰り商品が同店の売上の30%まで占めるようになったところで野坂さんは、ストローが鼻に刺さったウミガメを発見した動画を見て、プラスチックが環境を汚していることに強く胸を打たれました。「動画は全世界で話題になっていて、プラスチックは悪だ!という流れが強くなっていることを感じました。それでOKAMOCHI®もプラスチックは一切使わないことにこだわろうと思いましたが」と野坂さんは動画の衝撃を語ります。

#### プラスチック問題に胸を打たれる

イベント会社から多くの問い合わせが入りました。



使い捨て岡持ち「OKAMOCHI®」



OKAMOCHI®デリカフェ

を軸に開発したのが「OKAMOCHI®デリカフェ」です。すべて紙でできた食品容器で、箸やコップも1つに収納して持ち運ぶことができる設計になっています。この製品に興味を示したのが、食品容器販売の大手「株式会社折兼」。同製品を販売するライセンス契約を結び、生産から全国への販売体制を構築することに成功しました。大手企業のネットワークを使うことによって、全国から引き合いの声がかかっているそうです。

コロナ禍でより高まったテイクアウト需要に広く対応すべく、「新分野スタートアップ支援事業」などを活用して新商品を開発中だそうです。脱プラスチックにより貢献することが期待されており、今後の動きにも目が離せません。

脱「BOOKAMOCHI®」  
そこで、「使い捨て岡持ち」

## CASE 4 “代わる”新たな原料を開発

### 株式会社三和商会

「株式会社三和商会」バイオマス事業部長の船谷和宏さんに、同社が開発した環境に配慮した製品についてお話を伺いました。



バイオマス事業部  
セールスマネージャー 船谷和宏氏

株式会社三和商会  
https://f-sanwa.jp/

所在地:坂井市三国町南本町1-2-51(本社)  
あわら市古屋石塚22-111-1(あわら支社)  
代表者:角谷 雅和氏  
事業内容:プラント設計・施工等々  
TEL 0776-82-6479(本社)  
TEL 0776-73-5502(あわら支社)

1986(昭和61)年に設立した同社は、福井県内に4つのグループ会社を持ち、8つの事業を展開しています。その8つの事業の中で、今回注目したのがバイオマス事業です。15年前に立ち上げた同事業では当初、バイオマスプラスチックの製造機械を製造・販売していました。近年の世界的なプラスチック減量化運動にもない、バイオマスプラスチックが注目されるなか、製造機械の受注が上がっていききました。

同社としても、プラスチックに代わる新しい素材への期待や環境に貢献したい思いが高まり、去年、「NEQAS®(ネクアス)」事業を立ち上げ、バイオマス事業部のイチョシ事業として稼働しました。

#### 新たな原料を開発

NEQAS® 事業とは、従来から培ってきたバイオマス事業のノウハウを生かし、100%生分解樹脂、ポリオレフィン系樹脂にバイオマスファイバーを高充填したバイオマス樹脂を製造・販売する事業です。世界的にプラスチックの減量化が目されること

で、主流だったトウモロコシやサトウキビ由来のバイオマスプラスチックが入手困難になり、新たな原料の開発が求められていました。

そこで同社が注目したのが「卵の殻」です。「あくまでも廃棄されるものでかつ安定供給が可能なものを探していました。そして「純国産」にもこだわりました。卵の殻の消費量は一人当たり年間3000個。バイオマス度100%。身近にある存在でプラ業界では意外にも再利用率が低く、社会への訴求度が高い原料です」と船谷さん。

今年の7月1日、レジ袋・ファッション袋向けの卵の殻70%以上配合したマスターバッチ(原料のひとつ)の製造販売を開始致しました。袋原料のポリエチレンに成型時に混ぜることによって25%以



卵の殻で作った(原料)「NEQAS@BIO」と原料で作った袋



「NEQAS@OCEAN」のペレット

上のバイオ度もつ袋製造も可能になるという。

海でも溶けるプラスチック

それ以上に同社が注目しているのは「生分解性のプラスチック」です。同社は大阪府に拠点を置く、大手化学品メーカーの株式会社ダイセルと共同開発し、今年8月3日、生分解性成型材料の「NEQAS® OCEAN(ネクアスオーシャン)」をプレスリリースしました。従来からあるポリ乳酸などの生分解性プラスチックよりも物性や成形性が優れ、海でも分解される同製品は食品容器や包装材向けを中心に用途の開拓を進めているところだ。

「従来のものは加工しにくいという大きな欠点がありました。今後はさらに物性・成形性を高め、製品のラインナップを増やしていきたいと思えます」と船谷さんは意気込みます。開発後、引き合いが多

数あり、新たな設備投資も計画中です。

## 地域課題をビジネスで解決する! 福井発ITベンチャーの挑戦

### 株式会社フィッシュパス

都市圏のほうが「ヒト・モノ・カネ」へのアクセスが有利という点で、ベンチャーは大都市圏に集積して展開するものと思われがちですが、実は今、地域課題・社会課題などのビジネスの種が眠っている地方に注目が集まっています。

県内で成長意欲の高いベンチャー企業をご紹介するシリーズ。2回目の今回は、地方の課題解決型ビジネスモデルを手掛けるITベンチャーで、福井県初の官民ファンド「ふくい未来企業支援ファンド」の第1号案件として資金調達を実施した、株式会社フィッシュパス（坂井市）の事例をご紹介します。



代表者 西村 成弘氏



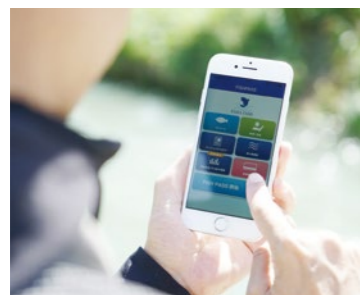
所在地 坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16  
福井県産業情報センタービル内  
TEL 0776-67-7335  
E-mail office@fishpass.co.jp  
https://www.fishpass.co.jp/

### きっかけは遊漁券未購入問題

株式会社フィッシュパスは2016年10月に創業した、地方の課題解決型ビジネスモデルを手掛けるITベンチャーです。当センターでは、ビジネスモデルの構想段階から継続支援しています。

日本の河川は全国830の漁業協同組合によって管理されていますが、経営不振により、内水面漁協の多くが苦境に立たされています。経営不振の理由の一つが、「遊漁券」の未購入問題です。しかし釣り人は、何も最初から無許可で釣りをしようと思っただけではありません。遊漁券を購入できる場所や購入できる時間帯に制限があるため、遊漁券を買いたくても買えず、結果的に遊漁券の売り上げが落ちている状況です。

そこでフィッシュパスは、24時間いつでも遊漁券が購入できるスマートフォン・タブレット端末向けのアプリ「FISH PASS」を開発し、2017年6月に提供を開始しました。アプリ



フィッシュパスアプリ



フィッシュパスアプリで遊漁券購入

経由の購入であっても、販売はあくまで地元販売店であり、既存の販売店の売り上げとなります。FISH PASSと提携しアプリを導入した内水面漁協の1つは、遊漁券の売り上げが前年比1.5倍に増加したそうです。さらには「FISH PASS」は、GPSを使ってアプリを利用して釣りの位置情報を得ることで、漁場の監視業務や河川整備の効率化も実現しました。

現在の提携漁協数は60。4年後には500の漁協との提携を目指しています。

### 日本の川・地方の未来を変えるために 上場を目指す

西村社長は、はじめからビジネスを大きくしようと考えていたわけではなかったそうです。「最初は竹田川周辺の地域おこしができればそれでいいくらいの軽い気持ちだった。いつでも事業をやめられるよう、人も雇わずこじんまりとするつもりだったのが、福井ベンチャーピッチへの登壇など、産業支援センターのベンチャー支援を受けていく中で、自分のビジネスモデルの成長可能性を感じ取り、思い切って舵を切った」とふり返ります。

2020年8月には中村副知事を表敬訪問し、「2025年を目標に上場を目指す」と語った西村社長。「弊社に注目が集まること、未来の川を守ることにつながる最大の効果だと考えている。日本の川・地方の未来を変えるためにも、上場に向けてがんばりたい」と意気込みます。



中村副知事を表敬訪問

今回の事例はいかがだったでしょうか。高齢化・人口減少・過疎化が進む福井のような地方では、解決すべき課題がいち早く顕在化するため、ビジネスチャンスを得られやすいとも言われています。身の回りにある地域課題・社会課題に目を向けてみると、新たなビジネスの種が見つかるかもしれません。

執筆者：ふるさと産業育成部 ベンチャー・EビジネスG 岡田 留理

# よろず支援拠点 相談ノート

新規創業編

### 平成30年10月頃から相談開始

「旧北国街道今庄宿にある古民家を活用して、団子屋さんを開業したい」という女性が鯖江商工会議所での相談日に来訪されました。具体的には、南越前町今庄地区で古民家を再利用するプロジェクトがあり、その中の1軒の蕎麦屋とコラボレーションで団子を提供してはどうかという話がありました。それに併せて団子の商品開発をしていきたい、ということが始まりです。

### 事業計画策定

担当したコーディネーター（以下Co）は、創業時に一番大事なことは事業計画をできるだけ具体的にしっかりと練り上げ、それに基づいて行動することだと助言しました。

中小企業庁が配布している「夢を実現する創業」という創業マニュアルを紹介し、その中にある事業計画のフォーマットを埋めていながら、具体的な事柄を検討してもらいました。

順調に進むかには見えましたが落とし穴もありました。当初予定していた蕎麦屋とのコラボレーションが破談になり、物件探しから再スタートしなければならなくなりました。



外観



店内

幸いなことに先のプロジェクトが管理している古民家は他にもあり、その中の1つである旧山田家は、元タパン屋さんが営業していましたので、大きな改造を施す必要もなく店舗物件として活用できました。開業の時期を数カ月遅らせる必要がありましたが、事業計画・損益計画をしっかりと作ってありましたが、方針の変更にもすぐに対応ができました。

### 商品開発

福井産のもち米に地元の豆腐を混ぜて作る白玉団子が大きな特徴で、ダイエット中の女性にもちょっとだけ気持ちを緩めて食べられるようにしました。

みたらし団子という串に刺したものを想像しますが、甘味処まりの団子そのまま血に乗せて提供します。これについてもCoは、他のお店との違いが出しやすいので良いだろうと助言し、和と洋を上手に融合させた商品を作り出しました。

相談先：甘味処てまり  
相談者：橋本慶子  
事業概要：旧今庄宿の古民家を使った団子をメインとする甘味処の開業と運営  
相談概要：団子屋さんを創業したい。



黒みつ抹茶

抹茶ぜんざいかき氷(夏季限定)

### ペルソナ<sup>※</sup>設定 販売促進

創業計画をしっかりと立案したつもりでも、誰を顧客とするのか、というマーケティングの基本が明確になっていないことが多いです。甘味処てまりも同様で、Coはペルソナを具体的に設定することを助言しました。

当初は地元在住の女性で、比較的年齢の高い人を想定し、商品もそれを前提に作り込んでいました。

集客や告知についてはInstagramを活用するという方針でありましたので、インスタでの投稿の構成やフォロワーの獲得策について助言しました。現在のフォロワーは463人ですが、まず500人を超えること、できれば1,000人以上にすることが課題です。

※ターゲット、顧客像のこと

### 開業後

令和2年5月に開業して運営を開始すると、当初想定していた地元の女性客が思ったほど来店していないことに気付きました。

そこでCoは、越前市や鯖江市、敦賀市など近隣市町村や県外から来る20代から40代の比較的若い女性にターゲットを設定し直して集客を進めるよう方針変更を提案しました。Instagramを使うことを考えてもこのターゲット変更は重要です。

また、季節に応じた商品の開発も必要で、継続的に支援を行っています。

### 相談者からのコメント

お店をやりたい!!って思っても、ある程度は何となく分かっているつもりでもどこから手をつけていいのかわからず…。よろず支援拠点に相談させてもらって、一気に前が見えました。開店時は新型コロナウイルス感染の影響もあって、テイクアウトからのスタートで不安でしたが、そこでもアドバイスを頂き、不安なく前に進みました。

今は、店内飲食もテイクアウトもできるようになり、売上を伸ばすことができています。ありがとうございました。

お申し込み・お問い合わせ先



福井県よろず支援拠点

TEL:0776-67-7402  
E-mail:yorozu@fisc.jp





## 株式会社ウノコーポレーション

所在地：越前市家久町105-27  
代表者：宇野 俊雄氏  
電話番号：0778-24-3557  
事業内容：超硬工具、工作機械、切削工具などの製造、販売  
<https://www.uno-c.com/index.html>



代表取締役社長 宇野俊雄氏

# 中小企業の強みを活かして、 福井県をロボット王国に

## 株式会社ウノコーポレーション

オーダーメイドの切削工具で世界中のものづくりに貢献する、株式会社ウノコーポレーション。工程改善も含む提案で企業のコストダウンに貢献する同社が、近年、力を入れているのがロボットシステムの開発です。昨年、同社の自動バリ取りロボットシステムが、福井県の『将来のふくいを牽引する技術開発支援事業』に採択。開発の経緯や今後の展望を代表取締役社長の宇野俊雄氏に伺いました。

### ロボットシステムの開発で バリ取りの作業を自動化

少子高齢化により深刻化する人手不足や世界的な人件費の高騰などで、注目を集める産業用ロボットシステム。さらに、コロナ禍による働き方やライフスタイルの変化が、ものづくりの現場で自動化・合理化を加速させています。そうしたなか、同社は約2年前から、独自の切削工具を活かした機械をロボットと組み合わせる自動化システムに着目。昨年、福井大学、福井県工業技術センター、福井銀行と連携したロボットによる加工部品のバリ取り作業の自

動化プロジェクトが、「令和元年度将来のふくいを牽引する技術開発支援事業」に採択されました。

「バリとは、機械加工で削った材料に必ず出る金属のトゲのような突起物のこと。緻密な作業が求められるバリ取りは自動化が難しい分野で、従来は何百個とある加工品をひとつひとつ人の手作業で行っていた」と宇野社長は語ります。

同社は、



バリ取り前(左)、後(右)

若手4人を中心に、自動バリ取りロボットシステムの開発チームを編成。5軸構成のロボットを2台組み合わせ、加工品のピックアップからバリ取りまで一連の作業を自動化しました。まず1台目のロボットが加工品をピックアップし、上下左右を認識してからバリ取り作業台に移動。2台目のロボットが1台目から送られたデータと上部に設置したカメラで形状を確認し、±0.01mmレベルの精度でバリ取りを行う仕組みになっています。



ピックアップして(左)、バリ取りを行う(右)

ユニクロ型経営を目指し新たにロボット事業部を  
バリ取り用工具の品質、センサー、電気制御、プログラ

ミング、操作における安全性の確保まで。多種多様な要素が求められるバリ取り作業の自動化を実現したのは、時代のニーズに応じてきた同社のフレキシブルな事業展開とネットワークにあります。

同社は1952年に機械工具商として創業。工作機械や一般製造業用の工具機器などを扱う機工事業部に加え、バブル崩壊後はマシンングや旋盤など多品種小ロット短納期対応の機械加工を行う加工事業部を新設します。その後、眼鏡のチタンフレームやiPhoneの削り出しに用いる大手量産加工事業者向けの特許取得の切削工具製造などにも着手。切削工具を使いこなす生産技術において他社の追随を許さないノウハウは、トヨタグループをはじめとする大手ユーザーから幅広い支持を得

ています。

高い技術力と確かな業績を築くなかで強みとしてきたのは、「開発から量産まで、短納期、低価格、高品質な特殊切削工具をユーザー別に提案する受注一貫生産システム」と自負する宇野社長。さらに、事業の拡大に伴い、国内50社・海外5社の代理店を展開し、オンラインネットワークを構築。近年中にはロボット事業部を立ち上げ、5GネットワークやIoTを活用し、本社で商品開発と販売企画を行い、自社や海外でOEM生産し、現地で販売する「ユニクロ型経営の工業製品パッケージ」の実現を目指します。

### 仲間を増やし挑戦を続け 福井県をロボット王国に

「お客さまのニーズにあわ



製造している切削工具

せて多品種小ロットで製造するロボットシステムは、一品一様のオーダーメイドに対応する福井の中小企業が



アームを変えることでバリ取りもねじ閉めもできる

得意とするもの」と宇野社長。「ロボットは、未来の若者に残したい21世紀型の夢のある商材。当社の事例を通じて、ロボット製作に関わる仲間を増やし、福井をロボット王国にしたい」と熱く語ります。

昨年11月、『ふくい産業ロボット研究会』を発足。県内約40社が参加し、岐阜県ロボットSIセンターなどをアドバイザーに迎えた同研究会は、自身が副会長を務めています。今年3月に予定していた工場見学は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になりましたが今後、オンラインでセミナーと講演を行う予定です。

「コロナ禍で、逆にデジタルの可能性が広がりました」と

語る宇野社長。今年11月、オンライン開催となった北陸技術交流テクノフェアへ初出席を計画。国内外へロボットシステムを販売するため、オンラインカタログやHPの活用などデジタル化を推し進めています。

現在、バリ取り作業の自動化に続き、同じく人の手で行うネジ締め作業のロボットシステムを開発中。今後は、ロボット事業部をビジネスの核とし、ロボットセンターを新築する予定です。「先の見えないことをやるのは、おもしろい。可能性を求めて、あえて新しいことに挑戦していきたいですね」と笑顔で締めくくりました。





2019年度グッドデザイン賞受賞  
産業観光イベント [RENEW] / RENEW実行委員会

「RENEW」は、福井県丹南エリアで開催される、持続可能な地域づくりを目指す工房開放イベント。2015年より、民間主導で7産業（漆器、和紙、打刃物、筆筒、焼き物、メガネ、繊維）の産地間ネットワークを形成し、3日間にわたり工房を一齐開放。消費者に対し工房見学やワークショップを通じて、職人に触れ、ものづくりの背景を知る機会を提供しました。この間、地域の熱量をあげる目的で、県外で社会的意義の高い挑戦を続ける人々が本産地に集うマーケット「まち／ひと／しごと」を開催。産地内で、産地の職人が最先端の取り組みや情報を得られる仕組みを構築しました。また、若い人々が継続的に産地に集う仕組みとして、先輩移住者によるトークセッション「移住 EXPO」を開催。結果として、2018年度は延べ約3.8万人の来場を記録。4年間で開催地域内に11店舗ものファクトリーショップが新規開設。また、RENEWをきっかけに移住者があらわれたほか、ロゴやWEBサイト制作、新規商品開発などに着手した例も見られました。

【DATA】

- プロデューサー (有) 谷口眼鏡 谷口康彦  
(株) 漆琳堂 内田徹  
(株) 滝製紙所 瀧英晃  
TSUGI 新山直広、森一貴
- ディレクター TSUGI 新山直広、森一貴
- デザイナー TSUGI 寺田千夏

【審査委員の評価】

担当審査委員 | 服部滋樹 近藤ヒデノリ 平林奈緒美 山出淳也 山崎 亮  
夏は暑いから工場の扉を開けて扇風機を回して作業する。そんな風景が少なくなった。空調の発達はものづくりの労働環境を改善したのかもしれないが、まちからものづくりの音が遠のき、職人の姿を見る機会が減った。本取り組みは、工場で働く人達の姿に触れる機会を創出している。それを広域連携のもとに実行している点が評価できる。こうした取り組みが頻度を高め、地場産業が活性化し、ものづくりの仕事に憧れる人が増えることを願う。

Re: RENEW/2020は、2020年10月9日(金)～11日(日)に開催されます。

こんにちは! F&IP です。  
環境に優しく経済的な  
「マイコン画像処理型積雪センサ」  
～道路に積もらない雪には水を撒かない～

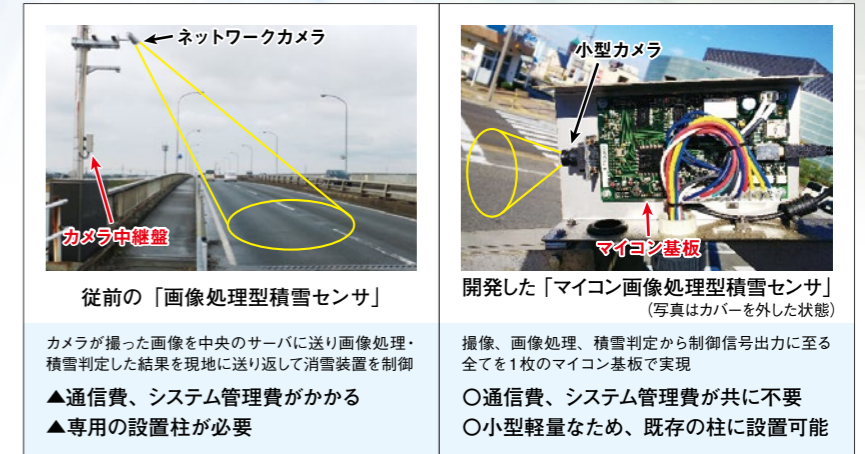
福井県工業技術センター 建設技術研究部

節水・節電に優れているのに普及が進まない「積雪センサ」

冬季における道路散水消雪のためのセンサとして現在主流なのは、上空から降って来る雪を検知する「降雪センサ」です。しかし、雪が降っても必ず積もるとは限りません。路面温度が0℃を超えていれば雪は自然に解けてしまうため、ここで散水しても水と電気が無駄になってしまいます。

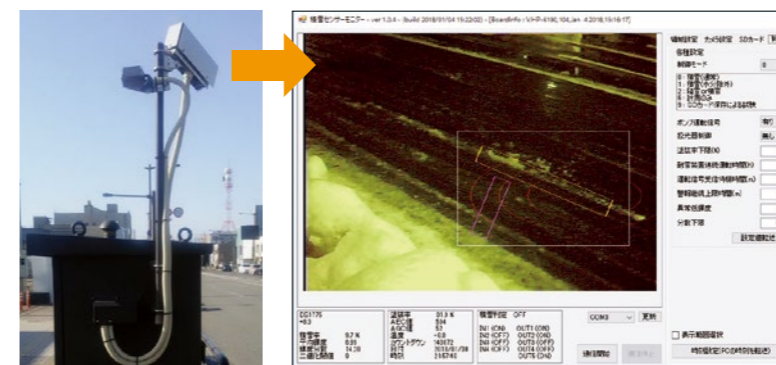
それに対し「積雪センサ」は道路上の雪を検知するセンサであり、無駄な散水がありません。降雪センサに対して65%の節水という驚異的な数値も記録しています。福井県雪対策・建設技術研究センター（平成29年度に工業技術センターに統合）は昭和63年度の発足以来、積雪センサの研究開発と普及に取り組んで来ました。

しかし、積雪センサは極めて高価で、普及は進みませんでした。車両走行等によって起きる雪の偏在をへらすために、積雪はある程度の「範囲」を検知することが必要で、このことが製品の複雑化・大型化を招いてしまうためです。積雪を「画像処理」の手法で面的に検知すればより安価になることが後の研究で分かりましたが、中央のサーバで画像処理するシステムとして開発したため、通信費等のコストダウンには限界がありました。



小型で安価な「マイコン画像処理型積雪センサ」の開発

更なるコストダウンを目指し、当センターは平成28年度、日野電子株式会社（坂井市）と共に「マイコン画像処理型積雪センサ」を開発しました。その仕組みは、①マイコン基板に組み込んだ小型カメラで道路を撮像、②同基板のCPUで画像処理し積雪を判定、③消雪装置に制御信号を出力、というものです。画像処理および積雪判定の方法は従来製品（平成18年度に開発した「画像処理型積雪センサ」）と同一ですが、①の撮像から③の制御信号出力に至るまでの全プロセスを現地のマイコン基板で完結しているため、中央のサーバとの通信が不要であり、コストダウンにつながります。



システム設置事例  
(福井市日之出2丁目消雪盤)

実稼働時におけるモニタ画面例 (平成30年1月30日)  
「積雪判定」以外にも、関連する計測データ、メンテナンスデータをモニタできる

また、ハードも1枚のマイコン基板を筐体に納めればよいので、小型軽量の製品となり、既存の柱にそのまま設置できる等のメリットがあります。

機器費は約20万円、工事費を含めると降雪センサよりも若干高額ですが十分競争可能なレベルに下がりました。耐候性も十分で、平成30年の豪雪時においても正常動作が確認できました。現在、小浜市からあわら市まで県内の道路30箇所に導入されています。

# IoTデビューしませんか? ～県内企業のIoT導入事例の紹介～

FUKUI  
AI Business  
OPEN Lab  
ふくいAIビジネス・オープンラボ

ふくいAIビジネス・オープンラボは、IoT・AI技術の導入支援や人材育成の拠点です。  
IoT・AI技術を活用した生産性向上・業務効率化や新たなビジネスの創出をご支援します。  
ここでは過去にAIラボにご相談いただいた県内企業のIoT導入事例を紹介します。

## IoT導入で生産ラインの効率化、納期の短縮を実現

福井県の補助金を活用して、現場のムダな作業の削減と作業の見える化による効率化を目標に、業務アプリ構築型のクラウドサービス「kintone」を主体としたシステムを開発、導入しました。その結果、スムーズな生産ラインの構築と管理の効率性がアップするとともに、納期の短縮化により正確な生産計画、人材評価につなげることができました。

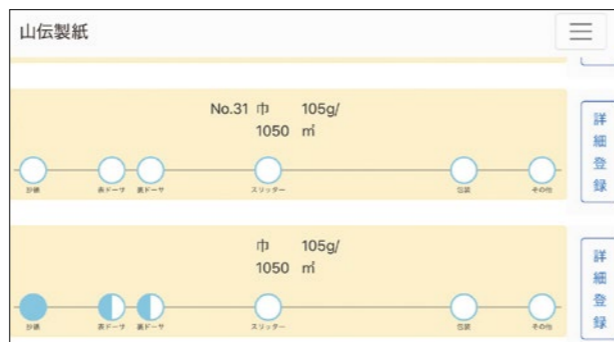
《導入機器》kintone (サイボウズ(株)製) MESH温度湿度センサー (SONY(株)製)



QRコードによる在庫管理



MESHによる温度湿度データ取得



現場に設置したタブレットの作業一覧画面

### 担当者の声

現場の意見を第一優先と考え、システム開発と現場導入を同時進行で進めることにより、システム導入と問題解決をスムーズに進めることができたと思っています。  
また、作業環境の温度湿度データを蓄積することで、これまでベテラン職人の経験頼りであった季節による製品不良率の変動についての仮説を立証し、適切な設備投資と管理体制を整えることで、今後さらなる作業効率化と品質向上を目指します。

### お問い合わせ先

山伝製紙株式会社 [製紙業]

越前市南小山町13-23 代表者 山口和弘氏  
TEL 0778-27-1556 URL <https://www.yamaden-seishi.com/>  
E-mail [info@yamaden-seishi.com](mailto:info@yamaden-seishi.com)

お問合せ

(公財) ふくい産業支援センター  
ふくいAIビジネス・オープンラボ (略称: AIラボ)





TEL: 0776-67-7404 E-mail: [ailab@fisc.jp](mailto:ailab@fisc.jp) <https://www.fukui-ailab.com>

開館 平日および第2・4の土曜日  
日時 9:00～17:00 (12/29～1/3を除く)

# ふくい産業支援センター嶺南サテライトオフィス 相談機能拡充のお知らせ

2020年8月から嶺南サテライトオフィス (アクアトム2階: 敦賀市神楽町2-2-4) にて毎週月曜日に事業承継を担当するコーディネーターがご相談に対応します。嶺南エリアの事業者の皆さまのご利用をお待ちしております。

また、同じく2020年8月より毎月第2・第4月曜日の13時～15時の時間帯で「福井県知財総合支援窓口」の知財支援アドバイザーが知財関連のご相談に対応します。こちらもぜひ、ご利用ください。

NEW 月曜日	火曜日	水曜日・金曜日	木曜日
<b>事業承継のご相談</b> 県事業承継ネットワークのコーディネーター (中小企業診断士) がご相談に応じます。	<b>経営全般のご相談</b> 産業支援センターの総合相談コーディネーター (中小企業診断士) がご相談に応じます。	<b>福井県よろず支援拠点の相談日</b> 経営相談のほか、法律、税務・会計、労務、IT活用、デザイン、補助金活用、販路マッチングなど、各専門分野のコーディネーターがご相談に応じます。	<b>経営全般のご相談</b> 産業支援センターの総合相談コーディネーター (中小企業診断士) がご相談に応じます。
 坪川CO	 竹田CO	 前野CO	 川嶋CO



← 詳細はこちら

### NEW

毎月第2・第4月曜日の13時～15時で知財関連のご相談をお受けします。(申込: 0776-55-2100 福井県知財総合支援窓口まで)



無料相談  
秘密厳守

日時

毎週月曜日～金曜日 (9:30～17:00)

※ 祝日・年末年始を除く

場所

アクアトム2階  
(敦賀市神楽町2-2-4)

電話

0770-22-0031



お問い合わせ

ふくい産業支援センター総合相談窓口 [事前予約制・相談無料]

TEL: 0776-67-7400 FAX: 0776-67-7429 E-mail: [soudan-g@fisc.jp](mailto:soudan-g@fisc.jp)

※ 右記のQRコードから総合相談窓口のコーディネーターの当番予定日や予約の状況をご確認いただくことができます。まずは、気軽にご相談ください。

総合相談窓口 ふくい Q 検索



## 中小企業生産性革命推進事業

新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越えるため、国の事業を活用し、前向きな投資を行う事業者を支援します。なお、県の助成制度を受けるためには、国の事業（特別枠）に採択されることが条件です。

### ①ものづくり・商業・サービス生産性向上促進事業

**対象事業**／革新的な製品・サービス開発または生産プロセス・サービス提供方法の改善に必要な設備・システム投資等に係る取り組み

**対象者**／中小企業、小規模事業者

**補助上限**／【一般型】1,000万円 ※特別枠の場合に限り、事業再開枠50万円の上乗せが可能。  
【グローバル展開型】3,000万円

**助成率**／【通常枠】中小企業1/2、小規模企業者・小規模事業者2/3  
【特別枠】A類型2/3、B・C類型3/4

【事業再開枠】定額（10/10、上限50万円）

**申請締切**／4次締切：令和2年11月26日（木）

### ②小規模事業者持続的発展支援事業

【一般型】

**対象事業**／販路開拓等に係る取り組み

**対象者**／小規模事業者

**補助上限**／1企業あたり上限50万円 ※特例で上限の上乗せがあります。

**助成率**／2/3

**申請締切**／3次締切：令和2年10月2日（金） 4次締切：2月5日（金）

【コロナ特別対応型】

**対象事業**／販路開拓等に係る取り組み

**対象者**／コロナ対策に取り組む小規模事業者

**補助上限**／1企業あたり上限100万円 ※特例で上限の上乗せがあります。

**助成率**／2/3

**申請締切**／4次締切：令和2年10月2日（金）

お問合せ先

ものづくり補助金事務局サポートセンター

TEL 050-8880-4053

福井県中小企業団体中央会

TEL 0776-23-3042

日本商工会議所 小規模事業者持続化補助金事務局

TEL 03-6447-5485

またはお近くの商工会、商工会議所へ

その他にも国の助成制度がありますので、詳しくは経済産業省のHPをご覧ください。

<https://www.meti.go.jp/covid-19/>

※上記は令和2年9月18日時点での情報です。新型コロナウイルス感染症に関する情報は日々補助や助成の範囲拡大などが起こっている状況ですので、掲載公開時点による差異がある場合がございますのであらかじめご了承ください。



## 国のコロナ関係支援制度の紹介

申請し忘れは  
ございませんか？

### 持続化給付金

コロナにより、特に大きな影響を受けている事業者に対して、事業の継続を支え、再起の糧としていただくため、事業全般に広く使える給付金を支給します。農業、漁業、製造業、飲食業、小売業、作家・俳優業など幅広い業種で、中小法人・個人事業者等の方が対象となりますので、本制度の活用をご検討ください。

#### <補助対象者>

- ①新型コロナウイルス感染症の影響により、ひと月の売上が前年同月比で50%以上減少している事業者。
- ②2019年以前から事業による事業収入（売上）を得ており、今後も事業を継続する意思がある事業者。
- ③法人の場合は、  
(I) 資本金の額または出資の総額が10億円未満、又は、  
(II) 上記の定めがない場合、常時使用する従業員の数が2,000人以下である事業者。

#### <支援内容>

法人は200万円、個人事業者は100万円

※ただし、昨年1年間の売上からの減少分を上限とします。

申請サイト

「持続化給付金」の事務局HP

<https://www.jizokuka-kyufu.jp>



### 家賃支援給付金

新型コロナウイルス感染症を契機とした5月の緊急事態宣言の延長等により、売上の急減に直面する事業者の事業継続を下支えするため、地代・家賃（賃料）の負担を軽減することを目的として、テナント事業者に対して「家賃支援給付金」を支給します。

#### <補助対象者>

テナント事業者のうち、中堅企業、中小企業、小規模事業者、個人事業者等であって、5月～12月において以下のいずれかに該当する者に、給付金を支給。

- ①いずれか1カ月の売上高が前年同月比で50%以上減少
- ②連続する3ヶ月の売上高が前年同期比で30%以上減少

#### <給付額・給付率>

申請時の直近の支払賃料（月額）に基づいて算出される給付額（月額）を基に、6カ月分の給付額に相当する額を支給。

お問合せ先

家賃支援給付金 コールセンター

TEL: 0120-653-930

本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう！

## 企業情報メール便

販路開拓のチャンス！  
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便（チラシ同封サービス）を毎月実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



### ● 次回実施号

**VOL.44 11月25日発行予定**

チラシ提出締切日：11月18日  
チラシ1,700部をご提出  
(持参または配送) 願います。

### ○ 料金

同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税抜)
A 4判以下のチラシ	6,000円
A 4判超～A 3判以下のチラシ (二つ折にしてA 4判以下のサイズにすること)	9,000円
A 4判以下のパンフレット (10ページ程度まで)	12,000円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき約10社まで受け付けます。

なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター 総務部 F-ACT担当  
TEL:0776-67-7414 e-mail:kouhou-g@fisc.jp

皆様の声を  
お聞かせください!!

「○○が面白かった、ためになった」、  
「△△をもう少し□□にしたらどうか」、  
「●●のテーマについて紹介して欲しい」、  
「▲▲会社がやっている■■■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

## 編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。今年の夏はとて暑く、取材で外出した時にマスクが透けるくらい汗をかいたのがいい思い出です。その甲斐があって、いつも増えているいいお話が聞けたと思いました。記事に収まりきらなかった話もあるので、それはまたの機会にしたいと思います。

さて、今回の特集は「高まる環境への意識～環境に配慮した製品を作る～」をテーマに組ませていただきました。取材してみて、環境に配慮した商品の需要の大きさに驚き、世間の環境に対する意識の高さを感じ取りました。レジ袋に関しては、バイオマスの原料が世界的に不足していることが印象的でした。

環境に良い製品、今アツいです！次号は11月25日発行です。



代表の土田直東氏

株式会社土直漆器

## 同社初の直営店をオープン

2020年7月5日、漆器製品の製造・販売を手掛ける株式会社土直漆器が、令和元年度 おもてなし産業魅力向上支援事業などを活用するなどして、河和田地区に直営店を構えました。

1980年に設立した同社は漆器メーカーとして様々な商品を作り続け、2010年以降には自社ブランド「直右工門」を筆頭に、「MOBILE TUMBLER / UMBRELLA BOTTLE」、「くるむ」などを立ち上げ、県内外から評価を得ています。

直営店は2階建ての車庫を改装。大きな漆塗りの一枚扉が特徴的です。中に入ると1階には、白を基調としたシンプルでオシャレな売り場が広がり、買い物客の心を躍らせます。2階にはワークショップスペースが設けられており、漆塗り体験や漆塗り職人との交流ができるイベントを行ってまいります。(体験内容は同社HPにて確認することができます)。

「河和田地区は漆器の産地ですが、専用の売り場はまだまだ少ないです。漆器をはじめ、打ち刃物や和紙、眼鏡などの福井県の伝統工芸品が全国的に注目されているなか、さらに産地を盛り上げていきたいと思います」と代表の土田直東さんは意気込みを語ります。

今年10月9日～11日に開催される工房一斉開放イベント「RENEW」に同社は参加します。木製のお皿やブローチに漆を塗る体験ができますので、ぜひご参加ください。お申込みはこちら (<https://reserva.be/tsuchinaosikki>)

活用事業：令和元年度 おもてなし産業魅力向上支援事業 (店舗改装・設備導入) 助成金

話題の  
新スポット巡礼  
県内企業が打ち出した気になる新スポットに「コン」編集担当が訪問。その空間に込められたコンセプトやこだわり、企業の想いをお届けします。

No.15

ご来店  
お待ちしております!

土直漆器直営店  
鯖江市西袋町214  
TEL 0778-65-0509  
営業日 HPに掲載  
<http://www.tsuchinao.com>  
営業時間 10:00～17:00

## 今年もあります！ ふくいの逸品創造ファンド事業助成金のご案内

県内企業が、地域資源を活用した商品開発および販路開拓の新たな取り組みについて、その費用の一部を助成します。

助成率および 助成限度額	<input type="checkbox"/> 助成率：1 / 2 以内	<input type="checkbox"/> 助成額：上限200万円
	<input type="checkbox"/> 交付決定日より原則12か月以内(会計年度を跨ぐことも可能) ただし、十分な効果を上げるために特に必要と認められる場合には、24か月以内で設定できるものとする	

交付決定までの スケジュール	事業説明会	新型コロナウイルス感染拡大の影響に鑑み、開催を中止します(個別相談対応可)	
	募集期間	9月16日(水)～10月30日(金)	
	審査会	11月中旬	ふくいの逸品創造ファンド <input type="button" value="検索"/>
	交付決定(事業開始)	12月中旬	

※最新情報は、ふくい産業支援センターのホームページでご確認いただくか、お問い合わせください。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター  
販路・資金支援部 資金支援グループ  
TEL 0776-67-7406 FAX 0776-67-7419

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター <https://www.fisc.jp/>  
総務部 TEL 0776-67-7414/FAX 0776-67-7419/E-mail: kouhou-g@fisc.jp  
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)